双葉通信【第 205 回】（人生は旅人№13）“ふくしまに恋をして　福島人に”　20240320

上田　勉

山形県酒田市と鶴岡市のひな祭りを訪ねて

3 月 3 日は雛祭り、今年は山形県酒田市と鶴岡市にひな祭りを見に行きました。江戸時代は日本海が表通り、太平洋は裏通りでした。また、人や物の行きかいも、陸路（街道）と共に海路（船）も盛んでした。特に日本海の北前船は、大阪・京都と北海道の江差や小樽まで結んでいました。

山形県の酒田市は、“西の堺・東の酒田”と言われて、北前船の港として栄えました。酒田には、本間家という豪商がありました。“堀田の殿様も本間様には頭が上がらない”という言い伝えがあります。置賜（おんたま）地方は紅花の産地です。京都や大阪では、口紅になる高価な紅花を女性にプレゼントすることが、武士や商人のプロポーズになったとも言われています。北前船で、酒田からは紅花や米が京都・大坂へ、京都・大坂からは古着や和菓子・雛飾り等の京文化が、酒田に入ってきました。酒田からは最上川によって、置賜地方と結ばれています。最上川は、松尾芭蕉の俳句や NHK 連続テレビ小説「おしん」でも有名です。山王くらぶの傘福は豪華絢爛で、一見の価値があります。

次に庄内藩の城下町である鶴岡市です。戊辰戦争では奥羽越列藩同盟で、庄内藩は幕府軍側に付きました。敗戦後、会津藩は僻地である下北半島の斗南（となん）藩に左遷されますが、庄内藩には寛大な措置がとられました。これには、西郷隆盛が官軍と「賊軍」との仲を取りもったことや豪商本間家が官軍に資金を提供したのでは、と言われています。鶴岡市は武士の街、酒田市は商人の街と思われますが、鶴岡市にも豪商がいました。地元の人は、鶴岡の住民はおちついていて、酒田の住民はせっかちだ、と言っていました。

鶴岡市は、作家藤沢修平の生まれ故郷です。藤沢修平の小説では、庄内藩が海坂藩となっています。鶴岡市を散策していると、海坂藩の面影があちらこちらに思い出されます。藤沢修平記念館へ寄ってみました。時代小説では、司馬遼太郎と藤沢修平が二大巨匠だと思います。江戸城は誰が建てたのか、という質問に対して、「司馬遼太郎は太田道灌」「藤沢修平は大工・職人」と答えたという話があります。私は大名や豪商・英雄で３なく、一介の庶民を主人公にした藤沢修平が大好きです。

雛飾りには、①武家や豪商が北前船で京都から買った“雛飾り”、②家族や親戚が女の子の誕生に贈った“つるし飾り”、③雛人形を買えないで祖母や母親が孫娘や娘の為に編んだ“つるし飾り”があるとのことです。各会場では、地元の人達と話ができて、お茶屋お菓子をごちそうになりました。

最後に、鶴岡市で感心したのが、市内の路地をくまなく回る巡回バスです。役場や公民館、小さい病院や小さいスーパー、小中高等学校や山形大学農学部などを回ります。３つのコースに分かれていて、それぞれのコースで左回りと右回りがあります。バスはそれぞれのコースで朝 8 時から夕方 6 時まで、1 時間毎に回ります。路地を回るので、バスはライトバンです。料金は 1 回 300 円ですが、1 日乗り放題券が 500 円です。高校生や高齢者にとっては

本当に助かります。観光旅行者も同じです。

【今の世を忘れさせる“傘福”飾り（山王くらぶ・酒田市)】(2024 年 4 月 1 日撮影)

【代々伝わる雛飾り（旧風間家住宅丙申堂・鶴岡市)】(2024 年 3 月 31 日撮影)

◇是非、福島へ来てください。被災地を案内します。
携帯：090-5300-4664　　メールアドレス　p-mia08@outlook.jp